

芥川賞受賞作品＝ベストセラー作品？ ～売り上げ格差の原因～

国語班：駒谷圭亮、井上佳杜真、與澤温大

要約

本研究の目的は芥川賞受賞作品における売上格差の理由を解明することである。計10作品を「内容、時代、話題」の3つの観点で調査したところ、「売上上位作品」の内容は人間の「不幸」を書いたものが多く、人為的話題で盛り上がった年に集中して出版されているが、自然災害が起きた年には「売上下位作品」が多かった。従って本研究では、芥川賞受賞作品の売上を決定する要素は「作者の知名度」、「内容の共感度」、「社会の雰囲気」、「運」であると結論づけた。

1 はじめに

本テーマとは別の研究で、芥川賞受賞作品について研究していたところ、有名な賞にもかかわらず作品の売り上げに大きな差があることに気づいた。そして、純文学には本来無関係であるはずの「売上」を考えることで、なにか興味深い結果が得られるのではないかという好奇心が本研究の動機である。本研究は売上格差の理由とともに、現代社会でどのような作品が売れ続けていくのかを示し、日本文学に学術的かつ商業的価値を提供するものである。本研究では「売上が上位5位の作品群」を「上位作品」、「売上が下位5位の作品群」を「下位作品」と呼ぶ。

2 研究手法

- ①基礎研究で、芥川賞について以下のようなことがわかった。
 - 1) 選考段階→内容重視、読者数(売上)→世間へのインパクト重視
 - 2) 上位作品は、平成15年と平成28年付近に出版されている。
- ②1)、2)より、仮説:「芥川賞の売上は時代の影響を受けるのではないか」
- ③現代に焦点を当てた研究のため、平成1年～令和2年(1989年～2020年)を研究範囲とした。
- ④売上上位5位と下位5位に分類し、「内容的観点、時代的観点、話題性」の3つの観点で比較した。
- ⑤「話題性」では、各年の出来事を端的に表した「今年の漢字」を参照した。

【表1】本研究で用いた作品とその売上部数

	作品名	売上部数(万部)
上位作品	火花	253
	蹴りたい背中	127
	コンビニ人間	62
	蛇にピアス	53
	おらおらでひとりいぐも	50.7
下位作品	この人の闕	3
	道化師の蝶	3.5
	首里の馬	4

3. 結果

≪研究1≫内容的観点

【表2】 作品の内容(青→下位作品 赤→上位作品)

作品名	内容
おどるでく	ロシア語表記の日記の解読
この人の闘	大学時代の先輩と後輩の哲学的会話
蛇にピアス	人体改造にはまった女性
蹴りたい背中	孤独な男女の関係
道化師の蝶	着想を捕まえる虫取り網でお話の素を捕まえる
火花	売れない芸人のいきざま
コンビニ人間	コンビニバイトを生きがいにする女性
百年泥	洪水の泥流を見て過去百年間の出来事を思い出す
おらおらでひとりいぐも	一人暮らしの老婆
首里の馬	沖縄の歴史を守る

(分析結果)

- ①上位作品は登場人物の不幸を書いたものが多く、内容の理解が容易なものが多かった。
- ②下位作品は学問を題材にしており、頭を使わないと読解が困難であるものが多かった。

≪研究2≫時代的観点

【図1】 各作品が出版された西暦 (青→下位作品 赤→上位作品)

「おどるでく」(1994)
「この人の闘」(1995)
「蛇にピアス」(2003) 「蹴りたい背中」(2003)
「道化師の蝶」(2011)
「火花」(2015)
「コンビニ人間」(2016)
「百年泥」(2017) 「おらおらでひとりいぐも」(2017)
「首里の馬」(2020)

(分析結果)

- ①下位作品の中に局所的に、上位作品が分布していた。
- ②上位作品は2003年、2015～2017年において連続的に分布していた。

≪研究3≫話題性

【表3】 各作品の出版時の西暦と、「今年の漢字」
(青→下位作品 赤→上位作品 緑→下位・上位作品の両方出版された年)

時代	出来事	今年の漢字
1994	大江健三郎がノーベル文学賞受賞	なし
1995	阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件	震
2003	阪神タイガース優勝	虎
2011	東日本大震災	絆
2015	アベノミクス、異常気象	安
2016	リオ五輪	金
2017	北朝鮮ミサイル実験	北
2020	コロナ流行	密

(※1994年の「今年の漢字」が「なし」とあるのは、1995年から「今年の漢字」が開始されたため。)

(分析結果)

- ①上位作品が出版されている年は、スポーツや政治などの「人為的な話題」が多い。
- ②下位作品が出版されている年は、地震、コロナなどの「自然災害」が多い。

【表4】 結果のまとめ (青→下位作品 赤→上位作品)

	順位	作品名	時代	売上(万部)	今年の漢字
上位順	1	火花	2015	253	安
	2	蹴りたい背中	2003	127	虎
	3	コンビニ人間	2016	62	金
	4	蛇にピアス	2003	53	虎
	5	おらおらでひとりいぐも	2017	50.7	北
下位順	3	おどるでく	1994	4	なし
	3	百年泥	2017	4	北
	3	首里の馬	2020	4	密
	2	道化師の蝶	2011	3.5	絆
	1	この人の闘	1995	3	震

4. 考察

【内容的観点についての考察】

「人の不幸は蜜の味」という言葉があるように、日本人は人の不幸を無意識に好む性質がある。また、近年の日本人の読解力の低下と関連して、難しそうに見える小説を避ける傾向があるのだと考える。加えて、いまやインターネットによって本の内容がレビュー等で容易に閲覧することができる。これらが、上位作品に「不幸」を書いたものが多く、下位作品に「学問的なもの」が多い理由であると考えられる。

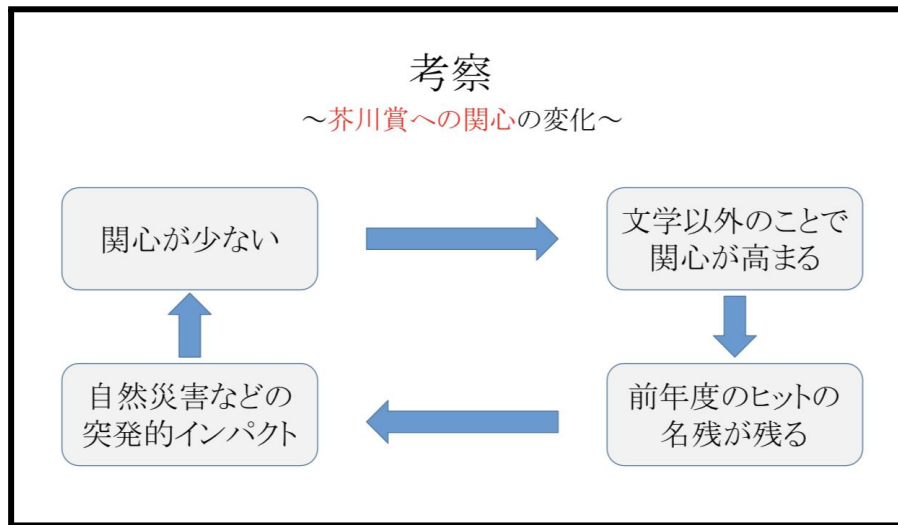
【時代的観点及び話題性についての考察】

(前提条件)日本人はもともと芥川賞に関する関心が薄い。(日本経済新聞 調査)

上位作品が局所的に分布している理由としては、メディアの報道や、芸能人の作家(例、ピースの又吉直樹)など、文学以外での世俗的なものと偶発的にリンクすることで、世間からの注目が高まり、注目度が後年にも引き継がれるためだと考える。しかしながら、自然災害等の高インパクトな出来事の発生

によって注目度が移動してしまい、再び芥川賞への関心がなくなっていくのだと考える。

【図2】芥川賞への関心の変化



5. 結論

仮説通り、芥川賞作品の売上は時代の影響を非常によく受けている。芥川賞の売上を決定する要素は、「作者の知名度」、「内容の共感度」、「社会の雰囲気」、そしてこれらすべてを満たすためになにより必要なのは「運」であると結論づけた。本研究で触れた要因以外にも沢山の要因があると予想される。また、研究対象の作品数が少なく、結果の精度が安定しない可能性も考えられるため、今後より精密な研究が必要であると考ええる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- ・(2017)『芥川賞物語』川口則弘
- ・文藝春秋 『芥川賞全集』
- ・直木賞・芥川賞受賞作単行本売れ行き部数一覧
<https://prizesworld.com/naoki/sp/wins/sales.htm>
- ・平成<https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E5%B9%B3%E6%88%90>
- ・日本経済新聞
『芥川賞作品を「読んでいる」35% クイックサーベイ 宣伝効果で読者獲得』
<https://www.nikkei.com/article/DGXDZO22908410V00C11A2KB2000>